

# 福田寺だより

発行

55

神奈川県小田原市飯田岡二五七 27

飯田山 福田 田 主 36

住職 橋本 尚信 信 信

なぜ本堂を建ててるのか？

—— 住職として、檀家として ——

「なぜ本堂を建ててるのか？」と問われた時に、皆さんは何と答えますか。・・・「法事をする場所だから」「お施餓鬼法要をするのに狭いから」「葬儀の時必要だから」「先祖の位牌を祀る場所として」等々、確かにこれらも当然の答えだと思います。しかし、見方を少し変えませんか。次のような答え方も考えられます。

「なぜ本堂を建ててるのか？」・・・「本尊様を祀る道場として」・・・

「なぜ本尊様を祀る道場が必要なのか？」そして「なぜ本堂はあのように荘厳する必要があるのか？」・・・「本堂の中心は何といても内陣の壇で、この壇に如来（本尊・御仏）を迎えて座っていただく訳ですが、如来とは即ち私達一人一人のことであります。檀家の皆様の一人一人が如来となって座る場所は、きれいに荘厳されている方がより素晴らしい境地になれると思います。」

本堂とはまず第一に、本尊様を祀る場所であること。その本尊（如来）様とは、真言行者が一体となる対象であること。真言行者が本尊と一体になって座する場所が、内陣の壇上であること。真言行者とは、真言宗末徒である私達一人一人がめざす者であること。

つまり、本堂とは私達が如来の境地になって座する場所であるということなのです。

以上のようなことも、本堂建設の一つの見方であろうかと思えます。今、この原稿を書いている最中にも大工さんの打つ槌の音がトントンと響いています。本堂一字が建つにはあの槌の音が何万回、何百万回叩かれることでしょうか。その一打一打が、檀信徒の浄財で響いているかと思うと、住職としての責務の重大さを感じずる毎日でもあります。

## 集 本堂新築工事進行

特 棟上げ工事始まる

## 二十トントン車使用

本堂新築工事は、基礎工事を終えた段階で新年を迎えましたが、その間も服部棟梁、克美、両師による木取り作業は着々と進められていました。そして二月下旬には、棟上げの工事が行われました。

◇ 二月二十三日(月)

未明の雨もあがり、多少基礎が湿っている中、早朝より二十トンのクレーン車が入り、三浦、服部、両棟梁の他、服部克美、明男兄弟、西方土建の齋衆四名で棟上げの工事が始

まりました。中心の一番太い丸柱が二本建ち中心が定まると、あとは手順良く次々と柱が建てられていきました。一年間、下小屋で今日の出番をじっと待っていた木々は、久しぶりに太陽の光を浴びて光輝いているようでした。

◇ 二月二十四日(火)

多少風はあるものの天候も良く、梁、桁が次々と組まれて行く姿は、とても見応えのあるものです。本体の骨格がほぼ整いました。

◇ 二月二十五日(水)

三日めの二十五日はかなり風が強く、クレーンで吊り上げられた太い

材木も、空中に上がると風のために相当ゆれていましたが、齋方が飛びつかんばかりにキャッチするや、そのままスルスルとそれぞれの場所に納められて行きました。

天候に恵まれ、予定よりも早く三日めには完全に棟が上がり、その雄姿を現しました。

一年間モクモクと手狭な下小屋で、これらの木々を刻んで来た服部正次棟梁、克美、両師のお二人には、我々とはまた違った感慨が胸の中に広がっていることでしょう。



上棟式予定

二月の末に棟上げの工事が終わ  
 りました。建設委員の方々には出席  
 いただきました。ご案内してあります  
 が、本堂の上棟式というものは、め  
 ったにあるものではありませんので、  
 一般檀家の方も是非見学に来ていた  
 だき、式を盛り上げていただければ  
 と思います。

特に、式の終わり（十時半頃）には  
 お餅も撒かれますので、お孫さん  
 お連れしても楽しんでいただけるか  
 と思います。

式の進行は以下の要領で行います

一、日時

昭和六十二年三月十四日（土）

（旧暦二月十五日・涅槃会）

午前十時 開式

午前十一時 祝宴

一、式次第

先 導師棟加持作法

次 慶讃文

次 法施

次 棟木上げ・曳綱

次 槌打ち

次 宝弓

次 棟札上げ

次 撒餅

式終了後記念撮影

祝宴

是非非見

来て下さい

行事予定

三月十八日～二十四日

春のお彼岸会

最近は施主家だけでなく、親類の  
 方々のお参りも多いようです。一族  
 皆で先祖の墓に詣で、先祖供養がで  
 きることは、一族の安泰を示し、と  
 ても幸せなことだと思えます。

三月二十一日

弘法大師正御影供

弘法大師のご命日です。京都、東  
 寺の弘法市、高野山の正御影供など  
 真言宗の各本山では大事な法要が営  
 まれます。

四月八日 花まつり

お釈迦様の誕生仏にあま茶をかけ  
 て祝います。お寺にお参り下さい。

く詩く

わかってたまるか  
わかってたまるか  
足の下に踏まれてばかりいる  
雑草のくるしみを  
陽の当たるところに  
出たことのない  
苔のかなしみを

だれにだって あるんだよ  
ひとにはいえない くるしみが  
だれにだって あるんだよ  
ひとにはいえない かなしみが  
ただだまってるだけなんだよ  
いえばぐちになるから

なまけると  
こころが むなし  
一所懸命になると  
自分の非力が よくわかる

うまれかわり  
死にかわり永遠の  
過去のいのちを受けついで  
いま自分の番を  
生きている  
それがあなたの  
いのちです  
それがわたしの  
いのちです

トマトがトマトであるかぎり  
それはほんもの  
トマトをメロンに  
みせようとすると  
にせものとなる

そのうち  
そのうち  
べんかいしながら  
日がくれる

くるしいことだって  
あるさ人間だもの  
まよふときだって  
あるさ凡夫だもの  
あやまちだって  
あるよおれだ  
もの

かんのんさまが  
みている  
ほとけさまが  
みている  
みんなみている  
ちゃんと  
みている

栃木県足利市  
相田みつを